

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19530209
 研究課題名（和文）
 ソーシャル・キャピタルが地域経済に及ぼす影響度分析
 研究課題名（英文）
 Measurement and analysis of social capital on regional economy
 研究代表者
 新井 圭太（ARAI KEITA）
 近畿大学・経済学部准教授
 研究者番号：60336485

研究成果の概要（和文）：

6 地域へのアンケート調査の結果、地域社会への参加度や支え合いの意欲（起業等経済現象も含めて）に関しては、個人の年収や所得水準よりもむしろ都市圏・非都市部（非農業者比率）、子供の有り無し、及び自営業者比率が大きな影響度を示していることが認められた。また、起業においては多くの経営者層が地域社会との結びつきを重視しており、資金調達面において有効に SC が機能している点が検証された。ただ、個人が知覚する幸福度に関しては、数値化された SC が高い地域とそうでない地域において有意な差異が存在せず、300 万円以上の年収世帯においてはほぼ同等の幸福度認識を感じていることも明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The degree of participation to the regional economy is, from our researches on regionally created “social capital” which indicates social bonding in the region, found to be influenced not by the level of income of habitants, but by the level of urbanization, commercialization, and the states of household. SC itself is measured to be quite significant in case for entrepreneurs while it is not shared among others who are not involved in regional commerce activity.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：

ソーシャル・キャピタル、地域経済分析、社会アンケート調査、起業家支援、幸福度調査

1. 研究開始当初の背景

地域ソーシャル・キャピタル（以下地域 SC と表記）とは「地域における住民相互の信頼性」もしくは「人々が持つ意識的な結び付き」を意味する言葉です。本研究を始めるにあたって、この概念的存在がどのような影響を地域社会や地域経済に及ぼすのか、という点に着目しました。

2. 研究の目的

本研究を具体的に進めるにあたっての目的は以下の4つに集約されました。

- ① 定性的存在である SC をどのように計測するか？（→ 測定手法の確立）
- ② 数値化した SC にはどのような背景が（数値の大小に対し）影響を及ぼしているのか？（→ 属性と要因の分析）
- ③ SC は地域経済に対し、なんらかのプラス効果（経済学において“外部性”と呼ばれるものに近い影響）を及ぼすものなのか？（→ 経済モデルによる実証分析）
- ④ SC が地域社会にもたらす安定性（精神的な意味での暮らしやすさや利便性、及び人々が知覚する充実度等）はどの程度のインパクトなのか？（→ 幸福度への影響度分析）

3. 研究の方法

手法に関しては上記①～④に場合分けをした上でそれぞれ異なるアプローチを用いました。まず①については内閣府や各研究者（国内外問わず）の先行研究を参考にしながら、設問を独自にアレンジした上での中規模アンケート調査（各地域1万部配布）を行いました。予算の都合から毎年1～2箇所の調査が限界であったにせよ、3年間にわたるデータ蓄積から多岐にわたる SC の基礎データ収集に成功しました。その後、主成分分析を中心とする数値化に取り組み、合成変数化に至っております。

次に、②については様々な属性（例えば世帯状況や年収、年齢や性別、職業のカテゴリー等）ごとにクロス集計を行うことにより分析を進めてきました。また③に関しては地域の雇用や生産に及ぼす影響度を回帰分析を用いて検証しております。また、起業に対する後方支援効果について数量化解析を用いて検証を行いました。

最後に④に関しては人々が感じる幸福の割合（本研究では“幸福度”という用語を

用いております）に対し、SC が及ぼす影響度を回帰モデルによって検証することを実施致しました。

4. 研究成果

データの収集自体にほぼ3年間で費やされた背景から、現在はワーキングペーパー（ディスカッションペーパー）の蓄積過程です。これまでの調査対象地域（群馬県高崎市・前橋市・東大阪市・東京都大田区・名古屋市・および鳥取県鳥取市）におけるアンケート回収結果から：

- (1) 都市圏（東京・大阪・名古屋）における地域交流（近所付き合い・イベントや自治体運営等）に関する参加意欲は郊外型地域（群馬県・鳥取県）と比較して相対的に低く、地域への結び付き自体への期待度もきわめて低い点が認められたこと
- (2) 地域経済との関係性に関して、経済水準が高い地域においては SC と大きな負の相関が認められたこと
- (3) 個人が知覚する SC や地域社会への参加意欲において、社会的地位や年収といった属性よりもむしろ、子供の有り無し・および自らが起業しているかどうか、が有意な要因であること
- (4) 個人的な相談等は身近な三親等以内に集中しており、地域のメンバーへのアクセスは鳥取市等を除けばほぼ存在しないこと
- (5) むしろ、インターネットコミュニティに参加することに意義を感じており、サイバーSCとでも呼ぶべき新たな SC ネットワークが有効に機能していること
- (6) 幸福度に所得水準は影響を及ぼさず、全所得階級を通じて「自分（やその家族）は幸せである」と非常に強く知覚していること（100点満点で平均80点以上）

の6点が現時点で明らかとなっております。データ収集が本年度末に終わったばかりであることから、4月以降はさらなる分析や推計が可能となります。

具体的には今夏から秋にかけ、各学会及び海外ジャーナルへと複数の投稿を行うことで成果を提示すると同時に、これまでのデータ蓄積を素に新たな論文をさらに量産することで、政策提言や知見に基づく社会的還元にも参加出来るものと考えております。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 新井圭太、地域ソーシャル・キャピタル推定のための基本分析、Kinki Working Paper Series、査読無、No. E-7、2008 年
- ② 新井圭太、質的データを用いた地域ソーシャル・キャピタルの推定、Kinki Working Paper Series、査読無、No. E-8、2008 年
- ③ 坂田祐輔、公益保護の経済学、Kinki Working Paper Series、査読無、No. E-10、2008 年
- ④ 新井圭太、都市圏におけるソーシャル・キャピタルの意識調査、Kinki Working Paper Series、査読無、No. F-9、2009 年
- ⑤ 新井圭太、中山間地域における地域ソーシャル・キャピタルの意識調査、Kinki Working Paper Series、査読無、No. F-4、2010 年

[学会発表] (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新井 圭太 (ARAI KEITA)
近畿大学・経済学部・准教授
研究者番号：60336485

(2) 研究分担者

坂田 祐輔 (SAKATA YUSUKE)
近畿大学・経済学部・教授
研究者番号：50315389

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

